旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
２０２１年６月２７日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙　　祷		一　同
讃　　美※	讃美歌５６「七日の旅路」	一　同
主の祈り※	（聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください）	
讃　　美	讃美歌532「一度は死にし身も」	一　同
教会学校	紙芝居「聖書の言葉で勝つ」	牧　師
讃　　美	讃美歌520「静けき河の岸辺を」	一　同
聖書朗読	黙示録6:1-4	
奨　　励	黙示録の福音(第12回)	牧　師
主　　題	「いつまでなのですか？」	
讃　　美	讃美歌286「神はわがちから」	一　同
献　　金	献金と感謝の祈り	
聖　　餐		
頌　　栄※	讃美歌５４６「聖なるかな」	一　同
祝　　祷※		牧　師
来週の箇所	**黙示録第七章**	

※印のところでは御起立下さい。

☆　はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申しあげます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
☆　私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
☆　献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです（２ｺﾘﾝﾄ9:7）。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
☆　キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
☆　第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
☆　二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会　ニュース

《今週の歩み》
６/27(日)聖日礼拝
　/28(月)
　/29(火)
　/30(水)
７/１(木)
　/２(金)
　/３(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》
①コロナ禍の速やかな終息のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③教会学校の子供たちも救われますように

良書ハイライト

「“いつ死んでもいい”は本当か」

篠田桃紅「百三歳になって分かったこと」(幻冬舎,2017)

あまり長生きはしたくないと言う人がいます。それは偽りだと思います。みんな、やはり長生きはしたい。誰だって死にたくはないはずです。中にはいろんな問題が起きて、人為的な理由から精神が自分を越えてしまい、死にたいと思う人もいるかもしれませんが、そうしたことがなければ、生き物には生存本能がそなわっています。長生きしたいと思うのが、生き物としての本能です。

「私はいつ死んでもいい」と言う人がいます。それは言っているだけで、人生やるべきことはやった、と自分で思いたいのです。自分自身を納得させたくて、「いつ死んでもいい」と言うのです。そう言うことで、自分が楽になります。だけど、まだ死ねない。これもあれもしなければと思うと、負担がのしかかってきます。負担から逃れたい、負担を軽くしたい。やるべきことはやったと思いたい…。

わかりやすい例は、親です。親は子供を育てます。子供は自立し、親としての責任をまっとうします。もうこれで「いつ死んでもいい」と親は口にするかもしれません。しかし、これで一切なにも子供のことは心配しなくなるかというと、親ならそれはありえません。心のどこかで、大丈夫だろうかと気にかけます。心配する種がなくても、何かしら見つけ出しては心配してしまいます。それは完全に親の手が離れたからと行って、心までも離れたということにならないからです。子供に対して、もうやってあげられることは何もありませんと、親は終わらせることができないからです。また一方で、あの子は実に立派にやっているから、自分なんかは必要ではない。いつあの世に行ってもかまわない、と言います。しかし、心から自分は無用で、いなくてもいい存在だと、決して誰も思いたくはないはずです。

この世にやり残したことはありません。責任を果たしました。ですから「いつ死んでもいい」と心から思っている人はいないと思います。すべての人の心は代弁できませんが、それはこの歳まで生きて感じることです。「いつ死んでもいい」と自分自身に言い聞かせているだけで、生きている限り、人生は未完だと思います。